

## CSCL 環境における学習ストラテジーの分析

茂木良治 (上智大学他 非常勤講師)

上智大学とグルノーブル第三大学（フランス）が共同で実施したプロジェクト Tokyo-Grenoble2007 における日本人学習者が利用した学習ストラテジーについて考察する。このプロジェクトはグルノーブル第三大学でフランス語教授法（FLE）を専攻する大学院生が作成したタスクで、ラーニングマネジメントシステム Moodle を通して上智大学外国語学部フランス語学科二年生がフランス語を学ぶ CSCL（Computer Supported Collaborative Learning）である。教授法はタスク中心教授法が採用され、聴解・口頭表現活動中心となっている。学生は授業時間にフランス人チューターが作成したタスクを CALL 教室で行い、フォーラムに投稿する形で成果物をチューターに提出する。チューターはその成果物を添削し、コメント・解説などのフィードバックを加えてフォーラムで学生に送り返す。本研究では、このような CSCL の学習環境において、学習者がどのような学習ストラテジーを意識して使用し、タスクを遂行していたか、学習者が授業後に記入した学習日誌より調査する。そして、CSCL 環境でのタスク中心教授法やフランス人チューターとの交流が学習者の学習行動にどのような変化をもたらしたかについても検討する。